

本校の教育

1. 研究主題

「子どもの問題意識を育てるために…」
～子どもが主体的に追究し、追究し合う社会科学習～
～子どもの願いや思いでつくる生活科学習～

2. 主題設定の理由

子ども達の現状には、いじめや不登校などの問題、忍耐力や自制心の欠如などによる問題行動、自立心が乏しく指示待ち傾向にある子どもの増加など深刻な問題がある。また、人と人との関係を結ぶことや人間関係を保持することが難しくなっている。

本校においても、受け身で指示を待っている傾向や学校のきまりを守ることや世の中の出来事に対する関心が低く、規範意識や社会性に問題のある傾向がみられる。

このような時代を生きる子ども達には、自己を確立し、自分を見失うことなく、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して、問題解決に向けてよりよく行動する資質や能力を身につけていくことが重要であると考えている。

学校が取り組まなくてはならない課題は多い。これらに対して個別に対応していたのでは、学校は多忙になるばかりである。子ども達に活気ある生活への前向きな構えと温かい仲間関係を育てることなしに『主体的・創造的な子どもの育成』はあり得ないと考える。

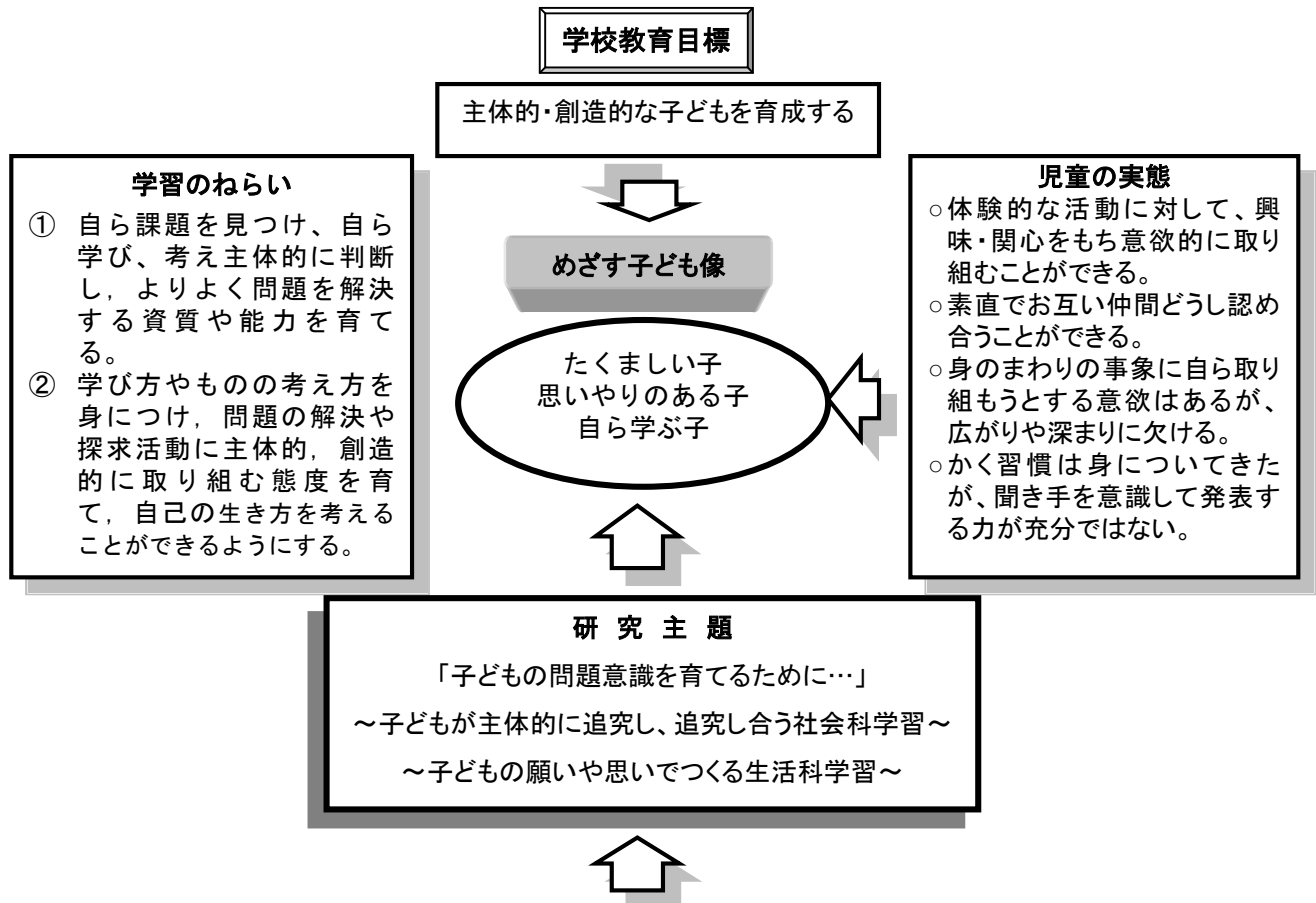
生活科や社会科（総合的な学習）は、子どもの主体的な活動を中心に据えることのできる学習である。わたしたちの願いは、生活科・社会科の学習を通しての「子どもの元気のよいくらしづくり」である。日々の学校生活の中で、私たちは子ども一人一人に、自分の生き方を見直し、自分たちの生活を創造的に前進させることのできる主体的で柔軟な構えを育てたいと願っている。

今後の社会を担っていく子ども達が、社会の仕組みを理解し、社会に対する見方・考え方を確立し、身の周りにある問題に対してしっかりと考え、判断し、自分自身のよさを実感しながら、周りや社会に働きかけ、よりよい社会をつくるために様々な活動を展開し社会に参画していくような学習が求められている。

子どもがもった疑問（問い）をもとに、個と集団での追究を大切に、そのなかで共に学び合うことの楽しさや厳しさ、一人では得られないものがあることを感じ取らせたいと考え、主題を設定した。

生活科では、具体的な活動や体験を通して学習を展開していくことが大切である。身近な「ひと・もの・こと」に関心をもち、子ども自身が気づき（驚きや疑問）、思いや願いをもって活動していくことで、積極的に関わろうとする態度を育てたい。

願いの出現とその実現に向けた過程を経験することで、子どもたちが自分自身の生活について考え、生活上の習慣や技能を身につけ、さらに前向きに生活していこうとする基礎を養っていくことができる。そのために、私たちは、子どもの願いや思いからスタートする生活科学習を進めていく必要がある。このような子どもの姿を願って、主題を設定した。



学年 育みたい力	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題をみつける力	興味、関心、疑問をもつ		課題を見つける		自らの課題を生み出す	
追求する力	めあてをもつ		見通しをもつ		こだわりをもつ	
	経験したことや、学習したことから自分なりの考えをもつ					
思いや考えを表現する力	自分らしく		相手を意識して		根拠をもって	
	友達の表現のよさに気づく		友達の表現のよさを生かす		互いの表現を認め、高め合う	
自分自身を振り返る力	楽しく活動に取り組む		新たな課題に気付く		新たな課題に向かって取り組もうとする	
	学んだことを自分の生活に生かそうとし、よりよいものをめざす					

3. 指導にあたっての努力点

研究主題に迫るためにも、子どもや地域に根ざした学習でありたい。それは、各指導者が子どもと共に日々の生活や身近な地域の中から問題を見出し、探究的に学びを創り上げていく学習である。そのため、次の点について努力していきたい。

(1) 子どもを探る（個をとらえ・個を生かす）

教科の学習の中だけでなく、遊びや仕事、友達との関わり、家庭での生活などあらゆる日常生活の中で個を知ることにも努め、学習の中で書いたもの・絵・日記・カルテ・授業分析などから絶えず子どものとらえ直しをしていく必要がある。

(2) 教材について

教材の選定にあたっては、教材そのものの価値だけでなく、子どもが教材に出合ったときどのようにとらえようとするか等、子どもを見つめる延長線上で社会の問題を見つめていきたい。言い換えれば、教師のねらいだけでなく、子どもの思いの中にも追究する価値を見出し、子どもの思いと教師のねらい（意図）をすり合わせながら学びを創り上げていくようにしたい。

わたしたちの考える追究に耐えうるよい教材の条件は次のようなものである。

- 子どもの生活とのかかわりが深い教材
できるだけ子どもの生活からスタートし、生活に帰っていく学習
- 対象との出会いにより、子どもが驚きや疑問を持ち、解決に向けての意欲を生む教材
- さまざまな立場があり、いろいろな角度からとらえることができる教材
- 子どもが社会の本質に迫れる教材
人間らしく生きること・自然と共に生きることの難しさや共感
- 子どもの変容が期待できる教材
- 子どもの問題意識が連続的に発展できる教材
子どもの追究が、息長く連続的につながっていくような学習

(3) 学習活動の工夫

子どもは、強い驚きや疑問を持つとそれをエネルギーとして意欲的な追究につなげていく。このような強い問いを生むために、体験活動・自己表現の機会・適切な資料の提示等、追究の意欲を高めるための学習活動の工夫を大切にする。（図1 参照）

(4) めざす学びの姿

私たちは次のような子どもの姿を『問題意識が育った子どもの姿』と捉えている。

- 一人一人がお互いの考えや思いを大切にし、認め合う姿。
- 一人一人が自分の考えをもち、一つの課題についてみんなで考えようと一生懸命に取り組む姿。
- 学習を生活に活かしたり、身の回りの事柄や事象から課題を見つけたりしようとする姿。
- 自分と『ひと・もの・こと』との関わりを楽しみ、生き方や願いなどを学ぼうとする姿、また、自分をふり返り、成長しようとする姿。

4. 本年度の取り組み

- 研究教科である社会科（生活科）についての研究をしっかりと行い、各指導者が教科の特性等についてとらえられるようにする。
- 学習問題について、一人学習等をもとに自己の考えをしっかりと持ち、互いに考えを出し合いながら高め合う学習を追究する。（みがきあい）
- 研究先進校視察、共同研究や講師招聘などによる研修を積極的に行う
- 着目児の考えを手がかりに子どもの追究を具体的に見とり、個に応じた支援を行う。
- 「開かれた学校」「開かれた学級」「地域と共に育つ学校・児童」となるよう地域人材の活用やゲストティチャーによるより効果的な指導法の改善を目指し、広く教育的支援を求める。
- 教育環境の一層の整備と充実に努める。